

2018年4月7日 親鴨会会長就任挨拶

尾立会長の後任の内池です。宜しくお願い致します。

簡単に自己紹介をいたしますと、1970年(昭和45年)にSEトレーニーとして日本IBMに入社しました。以来、24年間金融のお客様を担当し、1996年に現場のSEを全国・全業種で統合するシステムズエンジニアリングという組織が作られ、2000年問題対策室とともにその責任者となりました。2002年からは本社のスタッフオペレーションズとして経営企画、購買、品質、関連事業、営業管理を担当し、2005年3月末まで35年間に渡りIBMにお世話になりました。

退職とともに親鴨会に入ったもののフルタイムで働いていたこともあり、十分な活動は出来ませんでしたので、これから親鴨会の状況を理解したうえで活動してまいります。

さて、親鴨会は1986年の創立以来、多くの会員に参加いただき30年を超える歴史を刻んできました。その間、日本アイビーエムを取り巻くビジネス環境、それに伴う組織、社員の働き方、等にも大きな変化が生まれてきました。また、会員の年齢構成も広がってきたことから、親鴨会に対する期待も多様になってきていると思います。会の伝統として継続すべきものと新しい魅力を付加していくための施策をうまく組み合わせる事が求められています。加えて、日本アイビーエム副会長の下野さんに親鴨会の顧問に就任していただきました。日本アイビーエムとの連携をより密に図っていくことも進めてまいります。

その意味でも、皆さんにお渡ししているアンケートに是非ご意見、感想などをお寄せ下さい。今後の活動を考える際に参考にさせていただきます。また、HPやソーシャルメディア等、適時の情報発信や情報共有の仕組みを活用していきたいと思っております。

情報共有の一例として、私のIBMの仲間との交流は、美術を趣味とする仲間との「オー美会」の活動、金融やSEのOB会、担当したお客様との会など、時間を共有した仲間との絆があれば、新たな仲間との交流などを楽しんでいます。会員の多くが同様のOB/OG活動をされていると思います。こうしたOB会やIBM本体の行事などについて親鴨会がその情報のブリッジとなることなどを考えていきたいと思っております。

今年に入ってから2回ほど、オブザーバーとして本部幹事会に参加させていただく機会がありました。幹事の皆さんが精力的に会の活動を支えておられるのを間近にみて、大変心強く感じました。各支部長とも力を合わせて、ベルスの協力もいただき親鴨会を運営してまいりますので宜しくお願い致します。いずれにしても、私にとっては今日がスタートです。楽しい会になることを目指します。ありがとうございました。